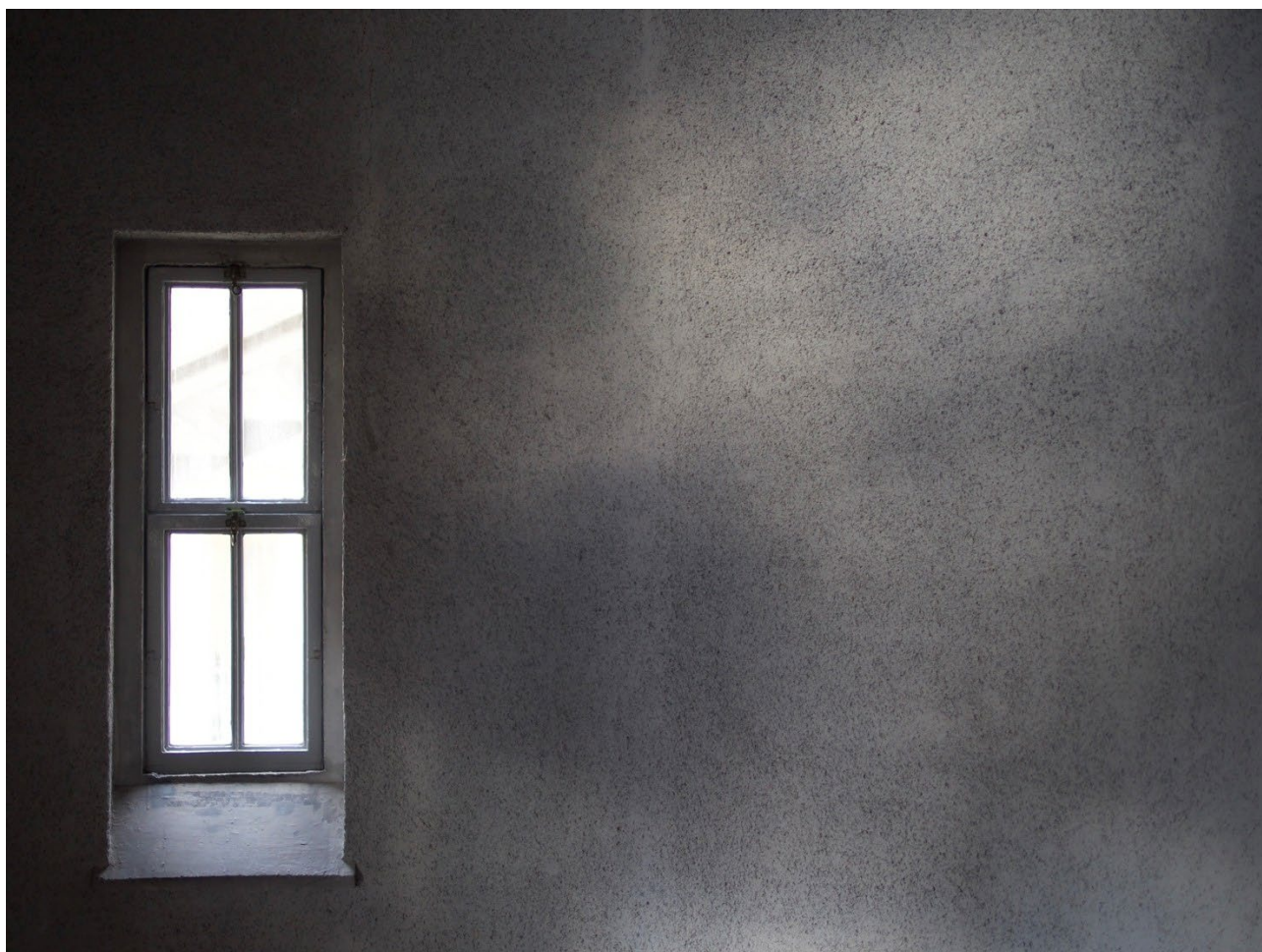


ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：建築&芸術学部 名前：下田 元毅 作成日：2024年1月4日



建築&芸術学部

下田元毅

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：建築&芸術学部 名前：下田 元毅 作成日：2024年1月4日

1. 教育の責任

建築・インテリアを中心に内・外部空間との関係性までを含めた、空間デザインの手法及び解読に関するアクションリサーチを行なっている。大学院修了後、空間デザイン事務所を設立して以降、主にリノベーションやコンバージョンを中心に空間デザインの実務を行なってきた。実務を通して、新築住宅着工戸数の減少、空き家問題などを目の当たりにしてきた経緯を踏まえ、建築コースの学生には、建築・インテリアにおける従来の学びに加え、今後の日本社会の縮退時代における空間デザインの手法や設計プロセスなどの視点や考え方を身につけてもらう事を意識している。

2. 教育の理念

建築・インテリアデザイン分野においては、その分野特性から社会に出てからもオリジナリティのあるアイデアやそれを伝達するスキルが求められる。そのため、学びを通じたアウトプットの主体は学生であることを自覚してもらいながら、「教え過ぎる」ことを積極的に避け、自身の考えを助長する仕組みと仕掛けを与えるように心がけている。自身の考えを見える化するため、学生と向き合う時間と聞く事を大切に、課題活動も含めて、様々な場面で学生との「双方向」を重視した教育を意識している。

3. 教育の方法

■教育の目的と目標

「学生が自身の考えを形にし、伝達すること」を目標とし、下記の教育実践を行なっている。

1. 授業計画を毎回提示し、到達点を明示した上で当日の学びの位置付けを説明している。
2. 「双方向」を重視している事から、講義科目でも毎回の講義内容に対するレポートと質問、授業メモの記載用紙を準備し回収している。全員の記載用紙に赤入れを行う、次週授業開始時に、授業メモ賞、レポート賞、質問賞を上位3つずつ紹介している。
3. 教科書の活用方法として、覚えなくてはならないワードを穴抜き用紙として配布資料を作成し、記載しながら講義を聴く進め方を行なっている。同時に用語などの説明後には、必ず事例紹介をスライドとして準備し、理解の定着を図っている。
4. 3, 4の授業スタイルのため、学生は常に聞く事と書くことを同時に行わなければならない。書くことは、自由にメモができる用紙形式を用いている事から、自身で復習ができるように心がけたまとめ方ができるスキルを身につけてもらう意図である。
5. 授業内容によっては、PC、タブレット、スマートフォンの使用を推奨し、自身で正しい情報を正確に早く入手できるようにしている。

4. 教育の成果

「2023年度春学期授業アンケート」における自由既述例：「建築に対する自分の興味を発見することができた授業だと思いました。もちろん建築計画についても習得できたと思います。」「先生が生徒の自由な発想を大事にしてくれるところがよかった。否定をしないから、クラスの中で上を目指そうと頑張れる。結果、頑張れた。」

上記、学生からのコメントから能動的な受講姿勢を確認することができ、現在の教育方法における一定の成果を得たと認識している。しかし、オリジナリティのあるアイデアの創出や伝達する展開や情報共有には至っていない。

5. 改善への努力と今後の目標

長期的目標は、建築・インテリア分野における目標として、学びを通じたアウトプットの蓄積の先にあるポートフォリオの作成を3年次秋学期に完成している状態の学生を増やす事である。各設計課題に加え、空間に対する自身の思想やコンセプトを掲載できる進め方を実践する。ポートフォリオは、当該分野の就職活動に必須であることに加え、その後のキャリアアップにも展開できる。その効果は、①大学の学びを目に見える形で着地させ、②自身の興味に対する技術及び感性を自覚し、③大学の出口での選択肢の間口を拡げることにあると考える。

今後の課題解決と計画は、ゼミ及び実習内における課題の作品化に向けた授業後のフォローである。フォローを仕組みとして構築していくために、課題完成後のポートフォリオ化に向けたスピノフゼミの開催やフォローアップゼミの定期開催などを計画している。ま

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：建築&芸術学部 名前：下田 元毅 作成日：2024年1月4日

た、授業内においても課題提出用紙や実習課題の提出要件の見直し、提出フォーマットの改善を進めていく予定である。

【添付資料】

- 1.2022 年度春学期授業アンケート集計結果：建築計画 I
- 2.2022 年度春学期授業アンケート集計結果：基礎製図演習 I
- 3.2022 年度 建築計画 I シラバス
- 4.2022 年度 基礎製図演習 I シラバス
- 5.佐藤学「学びの対話的実践へ」佐伯胖・藤田英典・佐藤学編『学びへの誘い： シリーズ 学びと文化 1』東京大学出版会，1995 年，49～91 頁.